

HELICSチュートリアル 第1部
ー HELICS協議会に求められる標準化活動ー

MEDIS-DCの標準化活動

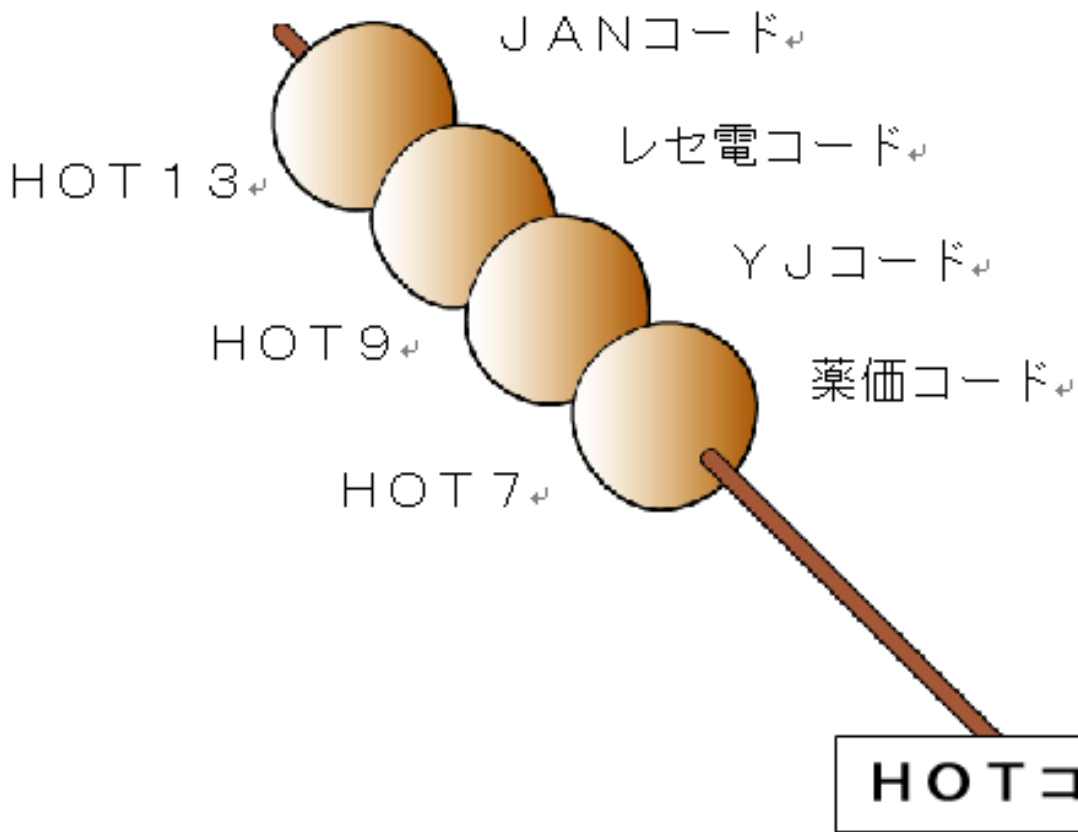
～開発から普及そして利活用へ～



一般財団法人医療情報システム開発センター
岡峯栄子

1. 医薬品HOTコードマスター（HS001）
2. ICD10対応標準病名マスター（HS005）
3. 標準歯科病名マスター（HS013）
4. 臨床検査マスター（HS014）
5. 看護実践用語標準マスター（HS024）

HOT番号(13桁の医薬品管理番号)、4つの汎用コードと対応JANコードと1対1



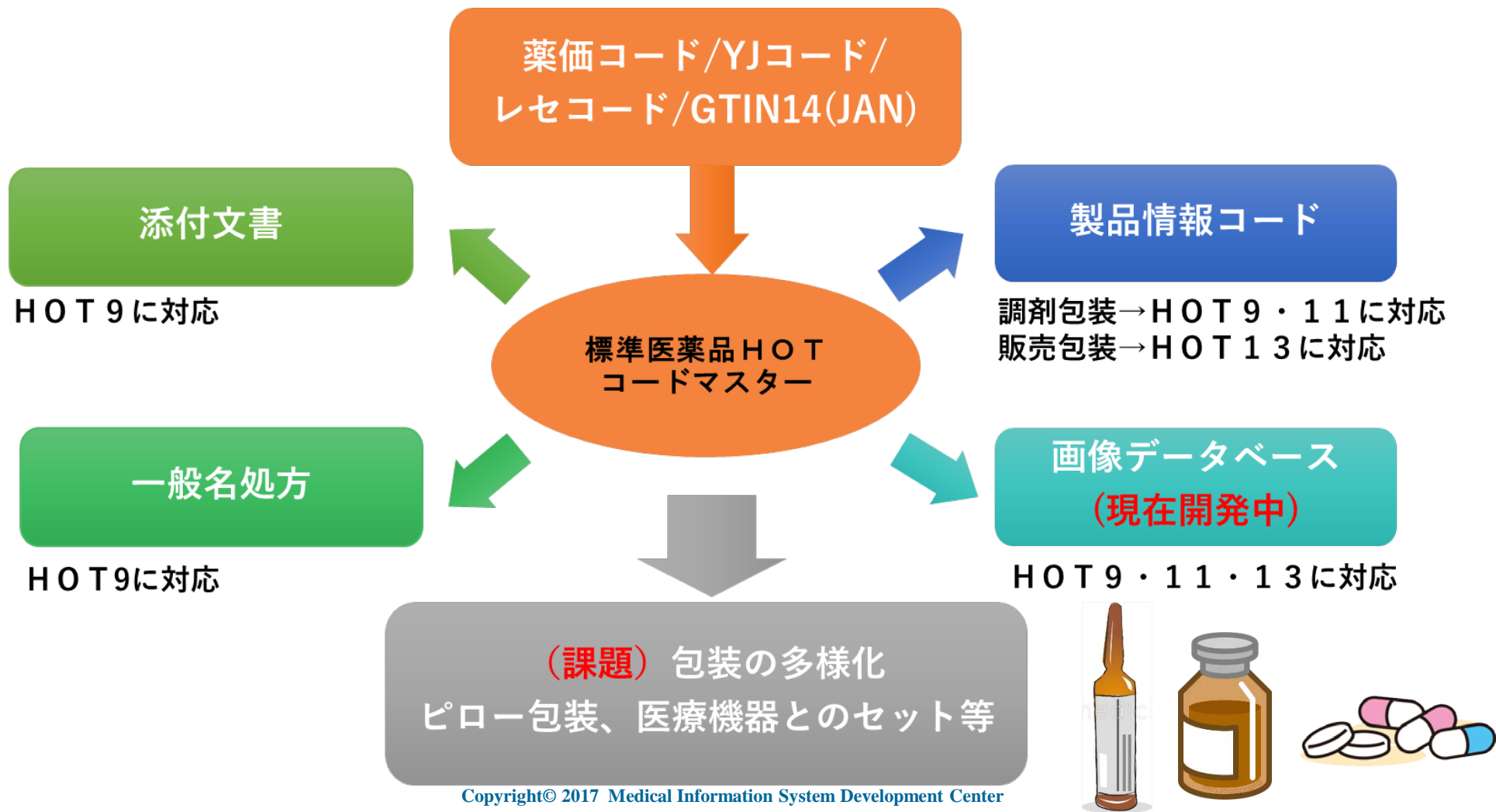
【運営体制】

販売製薬企業がWebサイトから
医薬品に関する情報を入力

HOTコード附番

全件データファイルは月1回公開
追加品目の差分情報は都度公開

HOTコードと他の医薬品情報との連携



1つの病気(疾患)に1病名表現、1病名コード、ICD10コード附番
支払基金のレセ電算用傷病名マスターと、同一時期、同一内容
で更新

【運営体制】

病名作業班(班長 大江和彦(東大)) 月1回開催

主に、医療機関、各学会からの要望、指定難病
未コード化傷病名の減少 への対応

- ・病名基本テーブル 25,403語(疾病概念数)
- ・修飾語テーブル 2,277語(左、右、急性、第1 など)
- ・索引テーブル 103,244語(同義語、略語、異字体など)

H28年度より原則年2回(6月、1月)更新

※必要に応じて、臨時リリース

※V4.02(H29.7.10)



ICD10 2013年版への対応

ICD10 2003年版とICD10 2013年版の双方に対応した
Ver.4.00リリース (H28.1.1)

《参考》

平成29年度データ提出加算に係る説明会 (H29.5.12厚生労働省保険局医療課)
p.29「平成29年度調査では、ICD-10(2003年版)準拠コードを使用した調査となるが、平成30年度以降の調査については、ICD-10(2013年版)準拠コードを使用することに留意すること。」

ICD-10(2013年版)に係る対応について

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000136366.pdf>

ICD室から周知連絡

<http://www.jsge.or.jp/files/uploads/news20150707.pdf>

厚生労働省から同義語に関わる事務連絡

公開された同義語については、傷病名（病名表記）と
同じ傷病名コードで請求可能

◆傷病名コードの統一の推進について

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000106421.html>

（別添）

索引テーブル

同義語	傷病名コード	傷病名（厚生労働大臣が定める 事項、規格及び方式別添3）	ICD10 （2003）	ICD10 （2013）
急性食中毒	0059003	食中毒	T629	T629
食事中毒	0059003	食中毒	T629	T629
食物中毒	0059003	食中毒	T629	T629

◆索引テーブル（同義語）の異動情報（MEDISホームページ公開）

更新に伴う、差分を含む、前版と今版の対応表

※マスターリリースに合わせて更新

標準歯科病名マスター

ICD10対応標準病名マスターから歯科病名を抽出し、歯科独自の項目（ICD-DA、カルテ表記略称名、レセプト表記略称名等）を追加



【運営体制】

歯科分野の標準化委員会
（委員長 齊藤孝親（日大松戸歯学部））

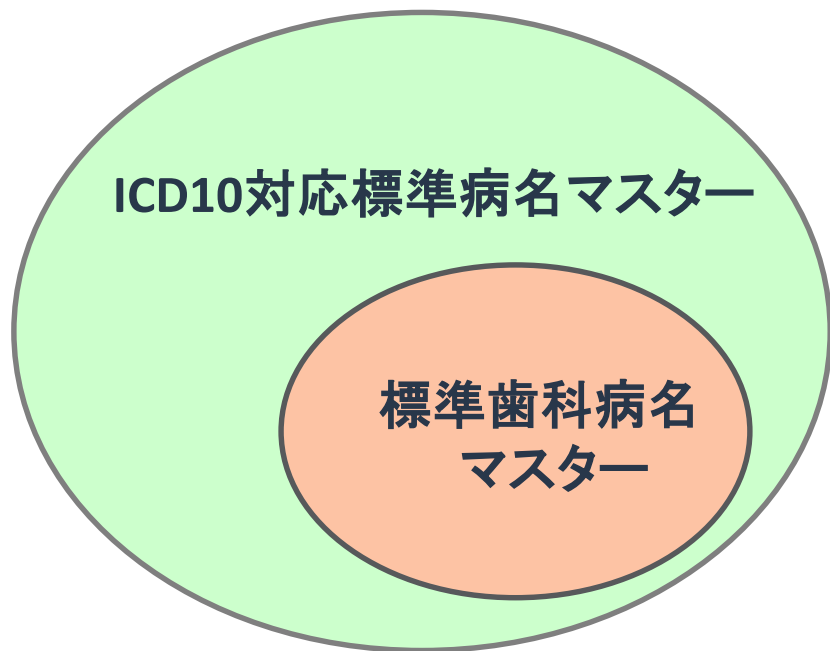
主に、医療機関からの要望
未コード化傷病名の減少への対応

- ・歯科病名基本テーブル 3,054語
- ・歯科索引テーブル 18,123語

※V2.02(H29.7.1)

H28年度より原則年2回(6月、1月)更新

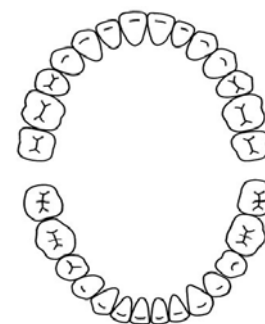
※必要に応じて、臨時リリース



標準歯式コード仕様Ver.1.0(HP公開、HELICS申請準備中)

歯科として固有の歯式について標準化し、電子的に情報交換するためのコードの構造と参照すべきテーブル等を定義

レセプト電算処理システム用 歯式マスターを包含
歯式コードの記録の順番



歯式コードの構造

1	2	3	4	5	6	7	8	9
歯種パート(4桁)				状態パート(1桁)	部分パート(1桁)	予備パート(3桁)		
歯の種別				支台歯等	近心根等	未使用		
固定値10		FDIコード2桁		歯の治療状態	歯の部分			

標準歯式コードを使用することで歯の情報を表現

標準検査項目コード(JLAC10コード)とレセ電算用診療行為
マスターを対応付け

【運営体制】

臨床検査項目標準マスター 運用協議会(7団体)

体外診断用医薬品の新たな承認・認証
診療行為マスターに新規追加された検査
ユーザー要望への対応

随時更新



JLAC10コーディング (JLAC要素コード表による)

・ JLACコードを構成する5つの要素（分析物、識別、材料、測定法、結果識別）について、各一覧表からコードを探す ①～⑤（この時、分析物－識別－結果識別の組み合わせを考慮する必要あり）・ 5要素コードを連ねて、17桁を完成させる ⑥ 医療機関等では、こうした作業を、全検査項目について繰り返し行なうことが必要

医療機関・衛生検査所

⑥ 例：HBs抗体-判定

分析物	識別	材料	測定法	結果識別
5 F016	1430	023	052	11

コード	測定法名	測定法名2
029	エンザイム免疫ノアッセイ(EIA)	その他 - V
030	エンザイム免疫ノアッセイ(EIA)	その他 - VI
031	ELISPOT法	
041	蛍光免疫ノアッセイ(FIA)	蛍光偏光免疫ノアッセイ(FPIA)
042	蛍光免疫ノアッセイ(FIA)	基質標識蛍光免疫ノアッセイ(SLFIA)
043	蛍光免疫ノアッセイ(FIA)	時間分解蛍光免疫ノアッセイ(TR-FIA)
044	蛍光免疫ノアッセイ(FIA)	その他の蛍光免疫ノアッセイ
051	化学・生物発光免疫ノアッセイ (CLIA)	
052	化学・生物発光免疫ノアッセイ (CLEIA)	
053	化学・生物発光免疫ノアッセイ (ECLIA)	
054	化学・生物発光免疫ノアッセイ (BLEIA)	
061	免疫比濁法(TIA)	
062	ラテックス凝集比濁法	
063	免疫比濁法(ネフェロメトリー)	
069	抽出法/免疫ノアッセイ	
070	その他の免疫ノアッセイ法	

④

分析物コード	分析物名(1)	コード	識別名
5F010	バルボウイルス	1405	ウイルス遺伝子型
5F011	バルボウイルスB19	1406	ウイルス血清型
5F015	HBウイルス	1410	ウイルス抗原
5F016	HBs	1411	ウイルス抗原定性
5F017	HBsサブタイプ	1412	ウイルス抗原半定量
5F018	HBc	1413	ウイルス抗原定量
5F019	HBe	1420	ウイルス特異抗原
5F025	HBウイルス-PreS1	1421	pp65抗原(C10,C11)[サイトメガロウイルス]
5F030	HBウイルス-PreS2	1422	pp65抗原(C7H R P)[サイトメガロウイルス]
5F035	HBウイルス-PreC	1430	ウイルス抗体
5F037	HBウイルス-PreC/CP	1431	ウイルス抗体IgG
5F040	HBウイルス-YMDD	1432	ウイルス抗体IgM
5F100	パピローマウイルス	1433	ウイルス抗体IgA
5F101	パピローマウイルス-高リスク型	1435	ウイルス抗体イムノコンプレックス
5F102	パピローマウイルス-低リスク型	1440	ウイルスDNA
5F150	アデノウイルス	1441	ウイルスDNA定量
5F151	アデノウイルス1型	1445	ウイルスDNAポリメラーゼ
5F152	アデノウイルス2型	1450	ウイルスRNA

②

コード	材料名
017	血液(含むその他)
018	全血
019	全血(添加物入り)
020	動脈血
021	毛細管血
022	血漿
023	血清
024	血球浮遊液
025	赤血球
026	リンパ球
027	血小板
028	白血球
029	臍帯血

③

コード	結果識別名
01	定量値
02	構成比
03	時間
04	吸光度
05	希釈倍率
06	処理前値
07	処理後値
11	判定
12	スコア
13	分布
14	型
15	標準偏差指数

⑤

①

体外診断用医薬品情報とJLACコードとの対応表

〔仮説〕 JLACコード対応表を用いることにより、JLACコーディング作業の効率性と正確性が増す

〔有効性の検証〕 JLACコード対応表の有効性を次の観点から検証

- ① コーディングの**効率性** ⇒ コーディング作業時間を計測して、従来法による結果と比較する
- ② コーディングの**正確性** ⇒ 付番されたJLAC10コードを採点して、従来法による結果と比較する

この添付文書をよく読んでから使用して下さい。

HBs抗体 Reag
037110/04.15
[体外診断用医薬品]

B型肝炎ウイルス表面抗体キット
ビトロス® HBs抗体

承認番号: 21400AMY0035000

製造販売承認番号
21400AMY0035000

+ {材料: 血清}

+ {結果: 判定}

医療機関・衛生検査所

①

② 例: HBs抗体-判定

JLAC10: 5F016-1430-023-052-11
JLAC11: V2011-0101-250-011-02

体外診断用医薬品と対応づけたJLACコード対応表

対応表項目
(01) JMDNコード
(02) 一般的名称
(03) 販売名称
(04) 承認/認証/届出番号
(05) 承認/認証/届出区分
(06) 承認/認証/届出年月
(07) 製造販売業者
(08) JLAC10コード (分析物-識別-材料-測定法-結果識別)
(09) JLAC11コード (測定物-識別-材料-測定法-単位)
(10) JLAC検査名称

看護実践用語標準マスター

電子経過表(温度板)や看護指示オーダー、クリニカルパス等での表示・入力画面を構成する、看護行為や看護観察の表記

【運営体制】

看護領域の標準化委員会

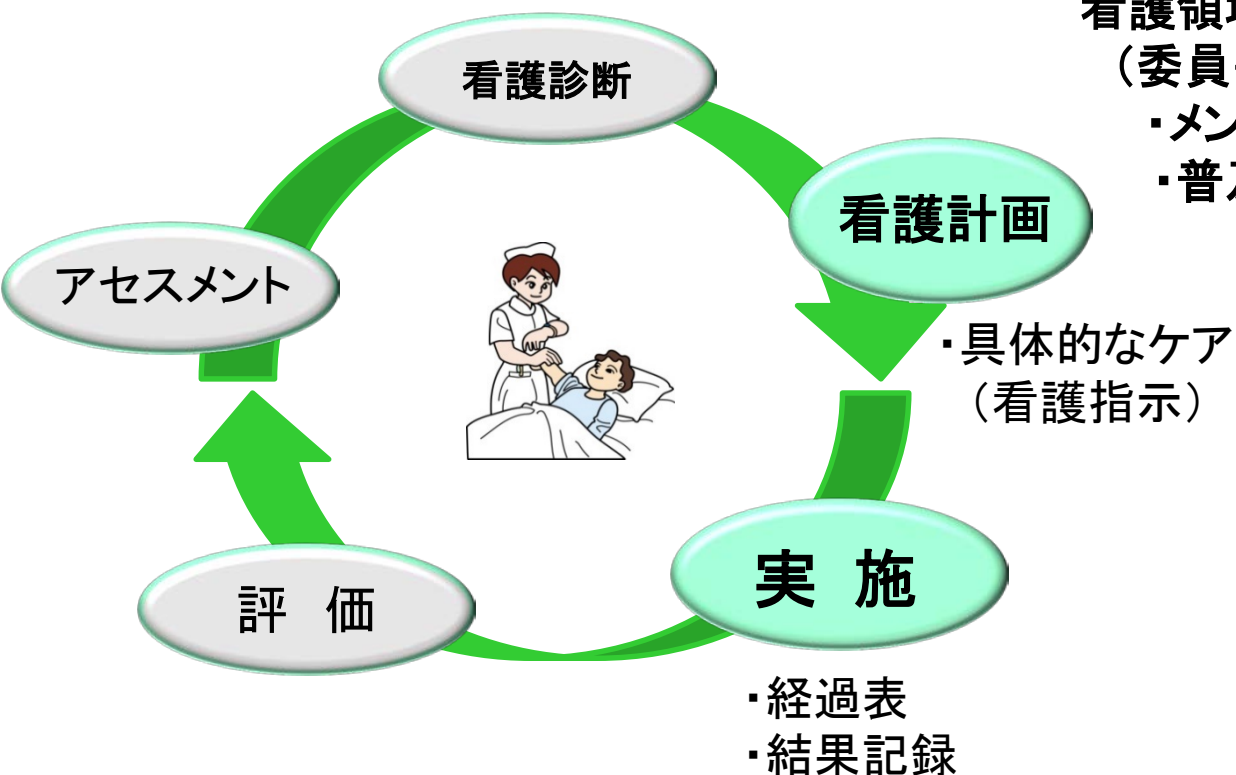
(委員長 美代賢吾(国立国際医療研究センター))

- ・メンテナンス作業班(ユーザ要望対応)
- ・普及推進作業班(セミナー開催等)

- ・看護行為テーブル 2,909語
- ・看護観察テーブル 5,408語
 - ・単位テーブル 41語
 - ・観察結果テーブル 898語
 - ・同義語テーブル 28語

※V3.1(H28.12.9)

年1回リリース(12月)



BOM(アウトカムマスター)との紐づけ

BOM アウトカム用語に設定された「観察項目名称」と
観察テーブルの「観察名称」が紐付け可能

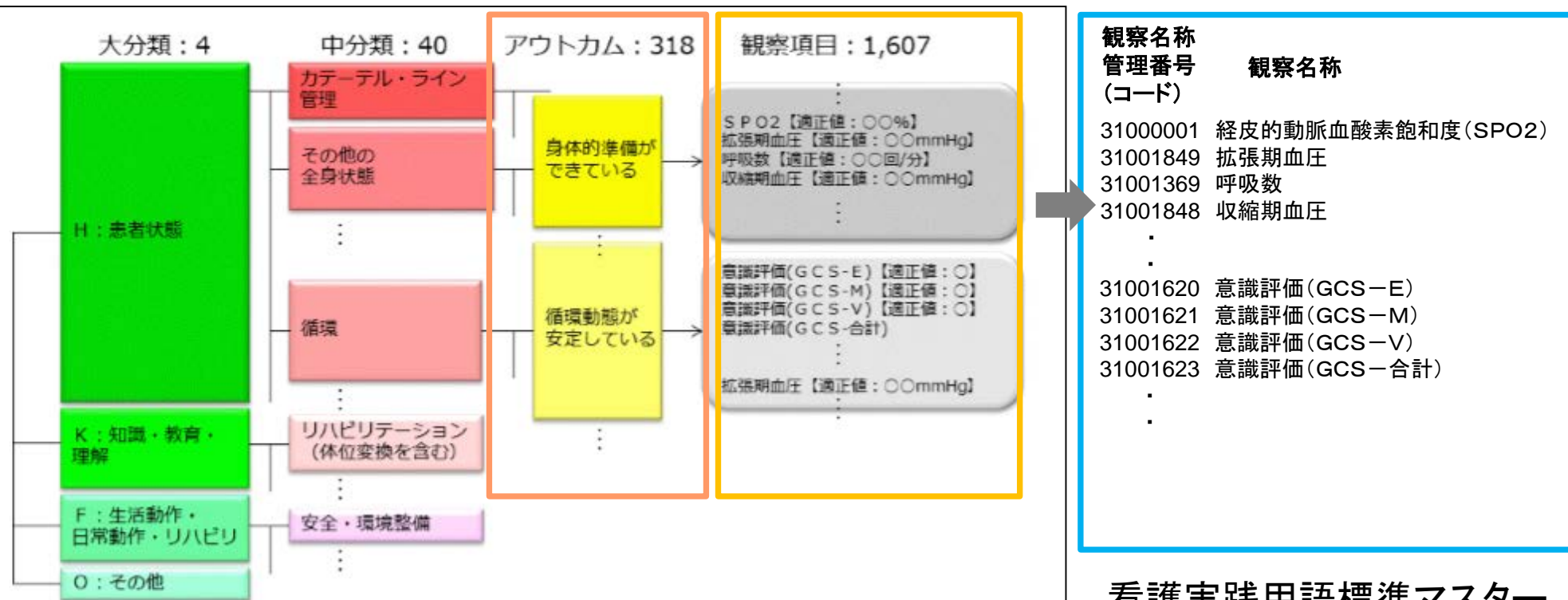


図 2 : BOM と観察項目マスターの関連性 (図 1-左図の拡大)

看護実践用語標準マスター



厚生科研 病床機能班とのコラボ

厚生科研「病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究」

(奈良県立医大 今村知明教授)

「病床機能連携・分化を支援するツール(チェックリスト)の開発」

- ・MEDISは、病床機能班が策定した「情報共有ツール」の項目と選択肢(継続ケアに必要な情報等(ADL、行動、精神症状など))との対応表を作成
- ・対応表を、MEDISホームページで公開予定



『看護実践用語標準マスター』利活用セミナー

～標準マスターを上手に使おう！～

<https://www.medis.or.jp/seminar/20171216/index.html>

第Ⅰ部 特別講演

厚生労働省医政局 医療情報企画調整官 森田 博通
「保健医療分野におけるICT化の動向」(仮題)

第Ⅱ部 看護実践用語標準マスターの概説

美代 賢吾(国立国際医療研究センター)

「Let's master a master file! -マスターファイルをマスターしよう! -」

岡峯 栄子(医療情報システム開発センター)

「看護実践用語標準マスターとは」

第Ⅲ部 看護実践用語標準マスターの利活用

中西 寛子(神戸市立医療センター中央市民病院)

「紙カルテでの標準看護用語の活用例」

樋口 由布子(東京女子医科大学病院)

「日々のケア実施や計画への活用」

吉本 千鶴(大阪市立大学医学部附属病院)

「パスでの利活用～医療の質向上を目指して～」

第Ⅳ部 総合討論・看護実践用語標準マスターの上手な使い方

H29.12.16(土)

14:00～17:15

神戸市立医療センター
中央市民病院 講堂

日本クリニカルパス学会 2単位
医療情報技師 1ポイント



医薬品HOT 病名 歯科病名 臨床検査 看護用語

◆ 継続的な維持管理

利用場面が増えたことによるユーザ、学会等からの要望の増加
他職種からの要望 等への対応

◆ 普及促進

マスターの周知、セミナー開催(概要、導入・活用事例)

◆ 利活用の推進

他団体との連携、行政関連事業での採用、マスタをベースにした開発

◆ HELICS申請(予定)

標準歯式コード仕様ver.1.0

ご清聴ありがとうございました！